



電子複写不可

0201

昭和二十一年二月

第六十二師団司令部戦闘詳報

台  
沖 經  
327

防衛研究所戦史部

TAOT

3

一二三  
初程載按空能致斗洋版

此書一二三  
石印一二三  
一二三

陸軍部	海軍部	陸軍部	海軍部	陸軍部	海軍部
-----	-----	-----	-----	-----	-----

1072

石師參之密第六號

一月二十二日敵艦載機空襲戰鬥要報

昭和二十年一月二十二日  
石師第一八八二部隊

目次

- 一 天候 氣象ノ概要
- 二 敵機ノ來襲狀況
- 三 敵潜水艦ノ狀況
- 四 我方邀撃戰鬥狀況
- 五 敵機ノ機種機數 裝備及攻撃手法
- 六 所見
- 七 敵與ヘタル損害
- 八 我方ノ損害

620  
司令印



一、天候、氣象ノ概要

- 1. 二十日早曉ニ高度二千米内外ノ濃密ナル層積雲、滿天ヲ覆ヒ(雲量一〇)東方僅カニ隙間アリ、地上近ク淡キ霧アリテ水平視程稍、不良ナリ
- 2. 一〇〇前後ヨリ逐次天候恢復ニ向ヒ高度五千米内外ノ高積雲(雲量六)ニ移行シタリ至リテ板晴トナレリ
- 3. 地上風ハ北東概ネ四米内外ナリ
- 4. 海上概シテ平穩ナリ

二、敵機來襲狀況

- 1. 〇六〇海軍電波警戒機先ツ與座嶽基兵一三五度九十料ニ敵編隊群本島ニ向ヒ近接中ナルヲ探知ス
- 2. 〇六三五沖繩本島地區空襲警報發令セラル
- 3. 敵機來襲狀況
 

〇六五〇	第一波	約一〇〇機
〇八三〇	第二波	約五〇機

1073

〇九五〇	第三波	約一五〇機
一一〇〇	第四波	約一四〇機
一二四〇	第五波	約八〇機
一三三五	第六波	約八〇機
一四五〇	第七波	約一〇〇機
一五四〇	第八波	約三〇機

計 約七三〇機

- 4. 一八三〇敵機本島周邊ヨリ離脱セルヲ以テ空襲警報解除セラル
- 5. 一九五〇空襲警報發令セラル
- 敵機十機小浜附近ヲ爆撃セリ
- 6. 二〇五〇空襲警報解除セラル
- 7. 攻撃目標 主トシテ各飛行場並ニ附近部落 高射砲陣地 船舶母艇
- 三、敵潜水艦ノ狀況
- 敵機來襲間沖繩本島南半部ノ東西海面陸岸近ノ(六千一―万五千)行動

1074

シテリテ不時着機ノ搭乗員ノ救助俾テ近海沿岸ノ諸偵察ニ任ツアリタルモ  
ノ如シ

四 我カ邀撃戦闘状況

空襲警報ヲ受領スルヤ即團ハ直チニ邀撃ノ態勢ニ移リ監視哨ヲ強化シ  
對空射撃ノ處置ヲ講ズルト共ニ主カハ掩蔽下ニ入り逐次侵入スル敵機ニ對  
シ戦闘ヲ開始シニ機撃墜九機撃破ノ戦果ヲ收メタリ

五 敵機機種機數裝備及攻撃法

「F6F」「TBF」「SB2C」ノ艦載戦闘機及艦上爆撃機ニシテ目標ニ對シ  
高度約一五〇〇米附近ヨリ一機宛ノ急降下銃爆撃ヲ實施ス

沖繩本島來襲機是約七三〇機ニシテ爆彈ハ主トシテ五〇発瞬發タ  
ロケット爆彈ヲ投下セリ

六 所見

敵機ノ銃爆撃要領特ニ其ノ伎倆ハ一〇〇空襲時比シ格段ノ逊色アリ  
即チ一〇〇空襲時於テ急降下要領極メテ巧妙ニシテ殆ト垂直降下ヲ實施シ

且ツ好シテ超低空飛行ヲ實施セルモ今次空襲ニ方リテハ降下角約六〇度  
ニシテ地上近クニ近接スルコト少ク且命中率悪ク超低空飛行駄ナシ

之累時ニ直ル皇軍ノ戦果ニヨリ敵搭乗員素質低下ヲ實證スルモノト謂フベシ

七 敵ニ與ヘタル損害

撃墜 二 撃破 九

八 我カ方ノ損害

一 人員 負傷 九(内將校二)

二 馬匹 戦死馬 一 戦傷馬 五

三 兵器 九九式短小銃 二 九七式三輪探照燈 二 探照燈發電車 一

四 燃料 三九六五立

九 建造物舟艇

兵 舍 炎上 四 全壊 一

借上家屋 全壊 四 小破 一

山原船 五隻(全部修理可能)



6. 射耗彈

九九式小銃實包

九三式重機普通實包

同 曳光彈

同 徹甲彈

五〇九一

四三二六

三〇

四二六

